

2023年3月15日

各 位

会社名 株式会社 キャンバス  
代表者名 代表取締役社長 河邊 拓己  
(コード番号：4575 東証グロス)  
問合せ先 取締役最高財務責任者 加登住 眞  
IR@canbas.co.jp

### AACR年次総会における当社研究成果発表の抄録公表について

当社研究開発部 Jonathan M. Friedman, PhD による研究成果が、2023年4月14日から19日まで米国フロリダ州オーランドで開催される米国癌研究会議（AACR）年次会議においてポスター発表されることとなったことは去る2月3日にお知らせしたとおりです。

本日、その抄録が公表されましたので、お知らせします。

表題： “Predicting Cancer Patient Treatment Outcomes from Recurrent Somatic Mutations: Identifying and Mitigating Some Critical Data Biases”  
(参考訳) 「体細胞変異をもとにしたがん患者の治療効果予測：重要なデータバイアスの特定とその影響の排除」

セッションカテゴリー： Bioinformatics / Computational Biology / Systems Biology / Convergent Science (バイオインフォマティクス・コンピュータ生物学・システム生物学・複数のサイエンス領域の統合)

抄録 (英文) : <https://www.abstractsonline.com/pp8/#!/10828/presentation/8152>

今回ポスター発表される内容は、頻度の多い体細胞変異（後天的な突然変異）の組合せを統計的手法や独自の計算方法によって処理したパターンが化学療法や免疫系抗癌剤の臨床効果を反映することを見出した知見を、さらに改良したものです。

前回の報告で課題としていた予測計算に用いる情報を見直し、変異のある遺伝子を関連性のあるものとグループ化して予測に加えるなどの改良がなされました。

また、結果の予測計算を「当たり/外れ」でなく患者間の類似性を $-1$ ～ $+1$ の指標（0は「不確定」）として取り扱う改良が加わりました。

これによって、「予測不能」が10～20%発生するようになるものの、前回報告時に課題とされていた点が克服され、より将来の実用を視野に入れたものとなっています。

効果の見られる確率の低い免疫チェックポイント抗体や、副作用が嫌われる化学療法剤にとって、その効果を予測できることは、新薬を開発するのに匹敵する価値があります。

また、こうした手法や知見の蓄積は新たな創薬ターゲットの発見にもつながります。

本件による当期業績への影響はありませんが、当社の創薬能力の基盤である基礎研究領域の広がりや深みを表す成果であり、当社の中長期的な企業価値の向上に寄与すると考えています。

※本件はCBP501に関する発表ではありません。

以上